令和6年度第4回秋田市公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時 令和7年2月4日(火) 9時30分から10時10分

2 会 場 秋田市役所 4階 会議兼応接室

3 出席者

【委員】※委員長を除き50音順

平野 浩之 委員長

片桐 大地 委員

河野美香子 委員

根田絵美子 委員

辻 良之 委員

【公立大学法人秋田公立美術大学】(議事のみ出席)

北郷理事長兼学長、石井副理事長、岩井理事、毛内理事兼副学長、竹内理事兼事務局長
加藤総務課長、大川学生課長、佐々木企画課長、畠山総務課長補佐、
鎌田学生課長補佐、総務課松江主席主査、企画課小玉主席主査、企画課小松主任

【設置者・評価委員会事務局】

栗林企画財政部次長、小杉山企画調整課長、企画調整課鈴木参事、企画調整課渡部主任

4 発言録

次第1 開会

事務局

ただいまから令和6年度第4回秋田市公立大学法人評価委員会を開会
する。

本日は、議題1件についてご審議いただく。

次第2 新任委員の紹介

事務局

続いて新任委員を紹介する。

長谷部委員が昨年11月の任期満了をもって退任され、新たに河野委員
に就任いただいた。河野委員の任期は、再任の皆さまと同じく令和8年
11月11日までとなる。

それではここからの議事の進行については、議長である委員長にお願い
する。

次第3 議事(1) 公立大学法人秋田公立美術大学第3期中期計画について

委員長

次第に従い、議事を進行する。

議事(1)について、公立大学法人から、第3期中期計画の概要や主な変

更箇所等に関して説明をお願いします。

公立大学法人 (資料1-1～資料1-3、参考資料1について説明)

委員長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問があればお願いします。

委員長 学際的な教育研究の推進の中で、若手研究者の育成が掲げられているが、美大の博士課程を卒業された方がアカデミアに残っていくことで何か工夫している取組はあるか。

公立大学法人 普通の大学と美大は状況が異なっており、本学の進めるべき方向性として「複合芸術」という看板を立てて研究を進めている。その中でも、作品を制作する作家性が重要となってくる。また、研究者として批評や、新たな芸術の世界を開いていく、価値づけていくことも大切。もう一つは、アートマネジメントという分野が盛んになってきており、今は主にこの3タイプの学生が集まるようになってきている。その中で我々がどのようにして質を高めていくか、学生の研究を高めていくかを常に議論しながら進めている。

複合芸術という新しい分野を本学の特徴として打ち立てて、一つの学会組織を作っていくことを目指していきたい。今はまだ、他の大学と比較することが難しい段階で、「複合芸術」という概念も業界の中では少しずつ定着しつつあるが、まだ広く認知はされていない。今ある一般的なアカデミアとは別の概念の中で自分たちの価値を作っていきたい。

委員長 博士課程で研究者を養成しているのであれば、創作活動など経験を積んでからアカデミアに戻ってくることもあると思うが、アカデミアになりたいという動機付けなどを博士課程でどのように工夫しているか興味があり、聞かせていただいた。

本学でも若手研究者の確保が難しい。現在、若手の助教クラスの人を募集しても応募がない状況であり、これからの学術研究を考えたときに、大学として研究者の確保に頭を抱えている。これまでは若手の研究者がアカデミアを目指してもポストがない状態だったが、今はポストがあっても来ない状態となっている。そうなれば自前で育てるしかないと考えているところである。

公立大学法人 今のところ、本学の博士課程修了生は、他大学であるが、教員となっている。

本学の教員募集においても、内定後、最後の最後になってお断りされる場合がある。経済格差がその原因なのか分からないが、美大でも学内で研究者を育てることが大事と考えている。今後、県立大学等と一緒に勉強していければと思っているのでよろしくをお願いします。

委員長 それでは、他にご意見、ご質問がないようなので、提出のあった第3期

中期計画（案）については、異存ない旨の答申としてよろしいか。

（異議なし）

委員長

ありがとうございました。答申書については、今月下旬までには市長に提出することとする。また、内容に影響のない字句等の変更は私にご一任いただくことでよろしいか。

（異議なし）

委員長

以上をもって、本日の議事は終了する。

それでは、進行は事務局にお返しする。

（公立大学法人退席）

次第4 その他(1) 第2期中期目標期間終了時の検討結果について

事務局

それでは、次第4その他に入る。

はじめに、(1) 第2期中期目標期間終了時の検討結果について、事務局から報告をお願いします。

事務局

（資料2、参考資料2について説明）

事務局

第2期中期目標期間終了時の検討結果については、後日、市のホームページで公表する。

次第4 その他(2) 年度評価廃止後の評価委員会の開催方法等について

事務局

続いて、その他の(2) 年度評価廃止後の評価委員会の開催方法等について事務局から報告をお願いします。

事務局

（資料3について説明）

委員

第1回評価委員会に出席できなかったため、改めてお聞きしたいが、年度評価廃止はどういった背景で至ったのか。

事務局

業務実績評価に対する大学の手間などがとても大きいということで、地方から国に対して年度評価の廃止提案がなされ、法改正が行われたものである。この改正によって、年度評価を廃止する代わりに、中期目標を達成するためにとるべき指標を今までよりも多く設定する条件が課され、大学からも説明があったように、これまで8項目であった指標が、第3期中期

計画では47項目になったものである。そういった意味では、法改正の趣旨に沿った計画が作成されていると捉えている。

美大については、第2期中期目標期間が今年度いっぱい終わることから、令和7年度の実績を評価する令和8年度以降、年度評価がなくなり、評価委員会に対してどのように報告すべきか検討しているところである。定期的に大学の状況はお知らせしたいと考えているが、報告の機会が対面なのか、書面なのかも含めて今後相談させていただきたいと考えている。

委員長

背景的なことを説明すると、国立大学に公立大学が並んだ状況となっており、国立大学でも年度評価が毎年あり、その他にも7年に1度認証評価を実施するよう学校教育法で定められ、きちんと水準を満たしているかどうかの評価もある。それ以外にも、例えば専門職大学院などいろいろな部署を持っていたりすると、それごとの認証評価も受けなければならないことになり、さらに自己点検評価も行わなければならない。これらの評価のために大学が忙殺されていたが、その割に見返りがなかった。評価委員会と大学とのやり取りはあるが、社会、国民、ステークホルダーがその評価をどこまで見てくれているかなど、疲れる割に実入りがなかった。当然、財務諸表の提出の際に、事業報告書も付けていて、1年の活動で何をやってきたのか示しているが、文字で記載しているだけなのであまり読んでもらえない状況で、このような不満が溜まっていた中で、改正されたものである。国立大学はまだ85大学あるので、その中で世界のトップを狙っていく大学と地域の中核になる大学と、分野的には世界のトップレベルである大学とカテゴライズされており、評価の結果によっては、運営費交付金にも反映されている。国立大学では評価がそういった機能を果たすが、公立大学ではそういった機能がない。これで質が上がっていくのだろうかという大学からの疑問もあり、地方独立行政法人法も改正されたものである。

委員

これから大学と何を中間段階で報告いただくかを議論されるということであるが、改正の趣旨を踏まえると、全部の項目ということではなく、秋田公立美術大学としての特性に応じたその部分の報告、例えば、基本理念の中に「まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む大学」とあるので、そういったところに重点を置いて、報告をいただければよいのではないかと。また、その報告が大学の活動を地元にもアピールする材料としても活用され、例えばあきびネットに参画する中小企業が増えるような流れになればよいのではないかと。

委員長

本当はこの法改正をする時に、事業報告書の報告の仕方まで変えれば良かったのではないかと。例えば、事業報告書の中で、今年はどういった活動をして、中期目標、中期計画の達成度合いが定量的にこうなると、記載させるのであれば、事業報告書で進捗管理ができたのではないかと。

事務局

市民の方も含めて、大学をよく知っていただくような報告書にしてい

き、よく理解していただきながら一緒に秋田を盛り上げていくような形にしていければいいと思う。それも含めて、来年度の評価委員会までに、大学と協議しながら、一つ方針を定めるのが必要であると考えている。

委員長 本学でも定量指標のものについては、進捗管理をしっかりとしていこうとしているが、最終的に報告書を作成するときに定性的なものは最終でもまとめられるので、指標の定量管理だけはしっかりとやっていくこととしている。

事務局 現時点で、美大の定量的なものをどのように、どのようなタイミングで外に出すのか、決まっていないようだが、学内での指標の管理は行っていると聞いている。

委員長 中間評価があるので、全指標の進捗状況を外に出すのはそのタイミングになると思う。

事務局 委員からご提案いただいたように、47指標全ての説明ではなく、美大の特性など重点的なところを中心に説明し、代表的なものをご紹介します。いただく形で大学と協議を進めたいと思う。

委員長 法律は関係なく、事業報告書の記載の仕方を工夫してはどうかと伝えてみてはどうか。

事務局 ご提案いただき感謝申し上げます。そのような方向で大学との協議を進めてまいりたい。

事務局 ありがとうございます。
令和8年度以降の評価委員会の開催方法等については、来年度、法人との協議の上、報告の仕方等が決まり次第、お諮りすることとする。

次第4 その他(3)

事務局 本日、審議いただいた第3期中期計画は、委員会の答申後、2月市議会定例会で概要を報告した後、市長が認可することとなる。
そのほか、皆さまから何かあるか。

委員 今年の卒業生の進路が分かった時点で教えていただきたい。

事務局 4月の初めにご挨拶に伺う際に、卒業生の進路も含め資料をお持ちしたいと考えている。

次第5 閉会

事務局

これをもって、令和6年度第4回秋田市公立大学法人評価委員会を終了とする。委員の皆さまには、お忙しい中、第3期中期目標、中期計画のご審議にご協力いただいたこと、感謝申し上げます。